

有機農業を含む環境創造型農業推進施策検討会

これまでの議論を踏まえた  
今後の施策の方向

令和5年8月22日(火)  
農林水産部(農業改良課)

# 1 第1回検討会で示した「今後の環境創造型農業推進の課題」

【課題1】有機農業を含む本県「環境創造型農業」に近年の情勢変化を踏まえ、これまでより広い環境負荷低減の考え方を加えた再整理が必要

【課題2】有機農業の一層の拡大に向けた経営として成り立つ支援の強化が必要

【課題3】環境負荷の少ない栽培方式について、県民が価値を正しく認識し、買い支える理解醸成が必要

## 2 課題に対する対応（案）

【課題1】有機農業を含む本県「環境創造型農業」に近年の情勢変化を踏まえ、これまでより広い環境負荷低減の考え方を加えた再整理が必要

### <委員からいただいた主な意見>

- ・ 大気中のCO2濃度は、産業革命前の280ppmから2018年に405ppmまで上昇した。
- ・ 土壌や海に蓄えられている炭素は、大気に比べると遙かに多く、温暖化は  
どんどん進む余地がある。
- ・ 農地は非常に炭素を蓄えられる有力な資源である。
- ・ 非CO2の温室効果ガス（メタン、N2O等）の排出源は、農業由来が多い。
- ・ メタンは、水田に水を張った時に排出されるため、水位をコントロールすることで排出を抑制することが可能。
- ・ メタンは、中干し延長によって平均3割削減できる。
- ・ バイオ炭施用と中干し延長がJクレジットの方法論として認められている。
- ・ 有機農業と水田の水管理やバイオ炭などは十分に調和する。兵庫県に適したモデルを構築していくことが重要。

## 2 課題に対する対応（案）

《目的》

安全・安心な  
農産物の生産

自然環境(生物多  
様性)の保全

地球温暖化の防止

環境創造型農業

現行の定義

兵庫県持続性の高い農業生産方式の  
導入指針等に基づき、

- ① 「土づくり技術」を基本に、
  - ② 「化学肥料低減技術」
  - ③ 「化学合成農薬低減技術」
- の3技術を同時に導入する農業生産方式

追加定義（案）

- ① 「土づくり技術」を基本に  
カーボンニュートラルを目指す農業  
生産方式を定義する技術を追加  
例)
  - ⇒ 温室効果ガスの発生抑制技術
  - ⇒ 土壌有機炭素を蓄積する技術

どのような定義とするべきか、意見をいただきたい。

## 2 課題に対する対応（案）

具体的には、

温室効果ガスの発生抑制技術

中干し延長  
(Jクレジット申請可能)

秋鋤き  
(稲わらの還元)

土壌有機炭素を蓄積する技術

たい肥活用による土づくり

バイオ炭  
(もみ殻くん炭)  
の活用

### 3 課題に対する対応（案）

【課題2】有機農業の一層の拡大に向けた経営として成り立つ支援の強化が必要

#### <委員からいただいた主な意見>

##### <有機農業の担い手の育成>

- ・有機農業で就農する前に農業の基本的な技術・知識を学ぶことは必要
- ・就農準備資金を利用できる研修機関として登録し、研修生を受け入れて指導している。
- ・消費者や半農半X対象の有機農業研修は人気がある。

##### <有機農業の指導者>

- ・指導者は圧倒的に足りていない。
- ・県の普及指導員やJAの営農指導員が有機農業を指導できる方がよい。

### 3 課題に対する対応（案）

<国の方向性>

有機農業の産地づくりは、市町村単位で取り組む

オーガニックビレッジ事業の推進

- ・有機農業の産地づくり
- ・生産から流通、加工、消費までの一貫した取組を行う。

<県の取組>

- ・オーガニックビレッジ事業に取り組む市町村を技術指導等で支援
- ・オーガニックビレッジ事業に取り組む市町村の掘り起こし

⇒ 有機農業の担い手育成体制の強化

⇒ 有機農業者等への指導体制の強化

### 3 課題に対する対応（案）

#### 有機農業への関心を高める

- 例) ⇒ 小学校における学校給食を通じた環境教育の推進  
⇒ 県立の農業系高校において、有機農業の興味を引き出す

#### 有機農業の担い手育成

- 就農前に有機農業の基本的な技術・知識を学ぶ機会を充実

例) ⇒ 県立農業大学校に有機農業コースを新設

担い手育成のために必要な施策について意見をいただきたい。

#### 有機農業者等への指導体制

- 1 普及指導員の有機農業指導力を強化

例) ⇒ 土づくり・土壌管理、病害虫対策、作物生理など

- 2 地域の有機農業実践者(親方農家)との連携強化

例) ⇒ 有機農業者との連携・交流のプラットフォームを整備

上記2のプラットフォームの内容や機能について意見をいただきたい。

## 4 課題に対する対応（案）

【課題3】環境負荷の少ない栽培方式について、県民が価値を正しく認識し、買い支える理解醸成が必要



### ■ フード・バリュー・チェーンを確実に消費者まで太く繋ぐ施策を検討

- ⇒ 有機JASや兵庫県認証食品などの第三者認証の推進・・・
- ⇒ 販路に対応した生産者の組織化、物流上の課題解決等・・・
- ⇒ CSAによる消費者の理解醸成・・・

### ■ 学校給食を通じた環境教育による理解醸成施策を検討

学校給食への導入拡大など、有機農産物の流通拡大のために必要な施策について意見をいただきたい。